

〇〇〇〇 町会様

祥雲

〇〇町会様山車

修理保存計画案

先日は山車点検にご協力頂きましてありがとうございました。点検結果をもとに、修理保存の方向性を検討・順番付けをさせて頂きましたので、ひとつの指針としてご活用頂ければ幸いです。

〇〇町会様の山車について

地域でも建立年が古く、貴重な形式の山車です。文化的な価値を後世に残せるよう努めて頂ければと思います。彫刻や幕も丁寧に取り扱われていて、保存状態・方法も良好です。

山車本体には時代や状況に合わせて補強されたり、改造されたりした跡が多く見られました。これからも永く挽き廻すことを考え、これから優先して行うべき修理保存の計画案を事項に記載します。

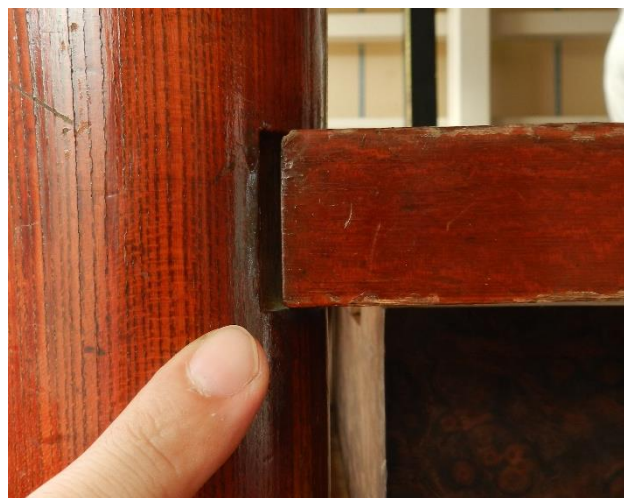
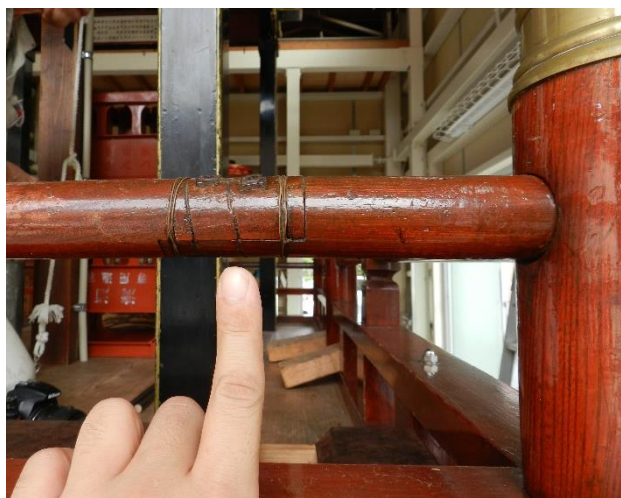
項目	優先度（5段階評価）
①下高欄	5 ■■■■■
②山車全体の強度不足	4 ■■■■□
③手木（土台）材料	4 ■■■■□
④塗装の状況	3 ■■■□□
⑤車輪	1 ■□□□□
⑥鋳金具	1 ■□□□□
⑦幕	1 ■□□□□
⑧彫刻	1 ■□□□□
...	...
...	...
...	...

※できるだけ早い段階で改修した方がよい件から★5段階で評価しています

①. 下高欄

5 ■■■■■■

高欄の材料の破損、ゆるみが複数個所に生じており、曳行中の転落などの恐れがあります。材料の反りも強く、露出したボルト留めで外観も良くありません。完全な修理はできないため新調を含めご検討ください。



②. 山車全体の強度不足

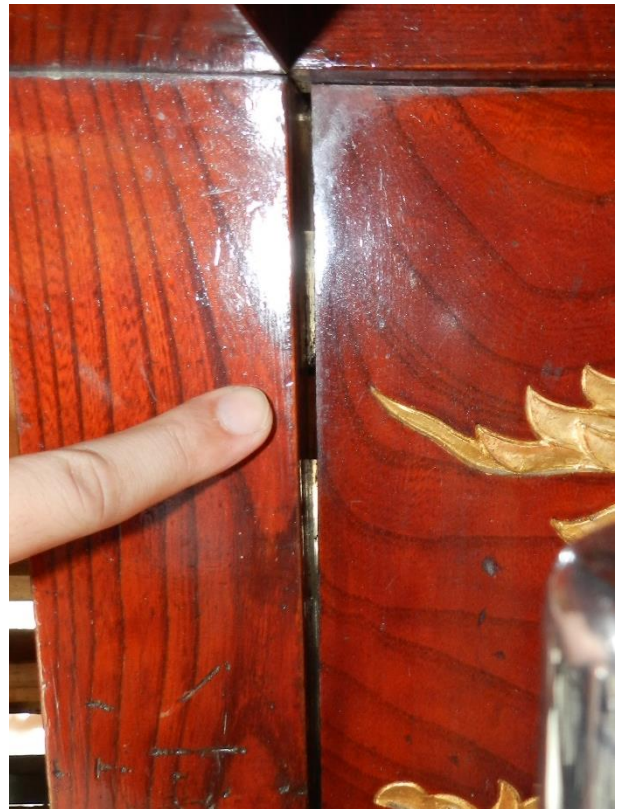
4 ■■■■■□

一般的な山車は、主な柱が手木の“ほぞ穴”に直接指し込まれますが、手木に柱が差さっていません。山車内側にある細い別材料に短くほぞが入っているだけの状態です。柱にも不要の穴が多く、運行中の揺れや衝撃を逃がす“木材のしなり”が十分効いていないと思われる。

内部も古い金具で留めてある程度で、強度不足は否めません。後で入れた補強材料によって保っているという状況です。



柱は手木に差し込まれておらず、この材料に短いほぞが入っているだけでした

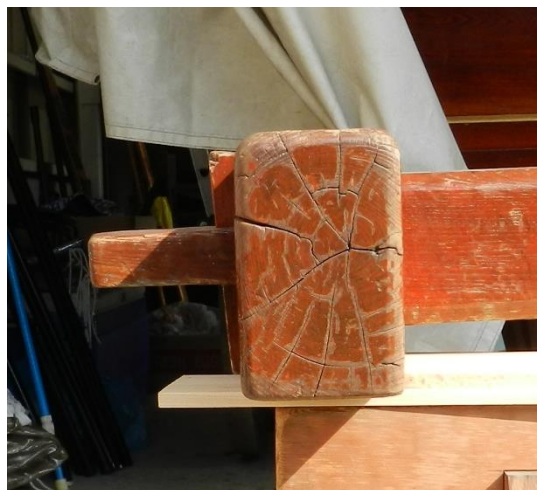


左) 古い金具による補強 右) 床面の四方を支える“持ち送り”の抜けなど

③. 手木（土台）の材料

4 ■■■■□

すぐに折れたりする恐れは無いように見受けられますが、経年による反りが強く芯が付いており太さも十分ではありません。正面向って左側前に芯に伴う割れが生じています。



手木（向って左前）

④. 塗装の状況

3 ■■■■□□

腰まわりはウレタン塗装、上はペンキでの塗装がされています。幸いなことに螺鈿と文字の列がオリジナルの天然漆塗りが残っています（経年劣化は進んでいますが）ので、建立当時の姿を復元することは可能です



⑤. 車輪

1 ■ □ □ □ □

輪金のズレはありますが、今のところ嵌め直しをするほどの緩みではないと見られます。正面から見て右の車輪の方が比較的緩みが大きいです。輪金の締めつけが強く木材が少し潰れているようですが、これもすぐに改修が必要なものではないと見られます。



以上は見本です。

実際はもう少し突っ込んだ内容で具体的に記載しています。全体写真・寸法・名称などは省略しています。

点検結果表と合わせて今後の山車管理にご活用ください。